

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-0014  
 住 所 東京都港区芝三丁目8番2号  
 氏 名 JFEミネラル株式会社  
 代表取締役社長 小倉 滋 印  
 (代理人) 京浜製造所 所長 小平 悟史  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEミネラル株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区扇島1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	21	窯業・土石製品製造業
主たる事業 の内容	鉄鋼スラッグの製造・販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	***** k l	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO <sub>2</sub>	
連絡先	担当部署	担当部署名	京浜製造所 製造部 管理室
		所在地	川崎市川崎区扇島1-1
		電話番号	044-277-7697
		FAX番号	044-277-1584
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 平成27年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

## ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,905 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,905 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,783 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,783 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,765 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,765 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,732 t-CO <sub>2</sub> (調) 3,732 t-CO <sub>2</sub>	(実) 3,754 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 3.1 % (調) 3.1 %	(実) 3.6 % (調) 3.6 %	(実) 4.4 % (調) 4.4 %	(実) 3.9 %

## イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	水砕生産量		単位	t-CO <sub>2</sub> /千t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	4.056	3.814	3.796	4.219	3.899
削減率		6.0 %	6.4 %	-4.0 %	3.9 %

## ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	通常年度より大規模な設備の老朽更新を実施したため、稼働時間が基準年度よりも減少し、排出量が減少した。また、生産数量が増加したため、原単位も減少した。
第2年度	当年度は、大規模な老朽更新工事は無かったものの、設備保全強化に伴う定期整備回数増加の結果、第1年度とほぼ同様な稼働時間・生産量となり、第1年度と同等の結果となった。
第3年度	当年度後半に、JFEスチール株殿の高炉の操業影響を受け、水砕設備の稼働率が大幅に悪化した。その為、稼働時間の減少に伴い電力使用量が減少したため、排出量は減少したが、稼働率の悪化に伴い生産効率も悪化したために原単位は基準年度を超過してしまった。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備</li> <li>○主要設備等の保安全管理</li> <li>○主要設備のエネルギー管理</li> <li>○ポンプ、ファンの運転管理</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポンプ・ファンの運転管理</li> <li>・設備の老朽更新に合わせて、ポンプ及びファンの稼働台数を生産状況に応じて制御するシステムソフトを導入した。今後、慎重にテストを行いシステムの効果を確認する。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備、○主要設備のエネルギー管理</li> <li>・毎月の環境エネルギー会議で、各設備の生産量及び電力等エネルギーの使用量を報告し、関係者に情報を共有化できるようにした。</li> <li>○主要設備等の保安全管理</li> <li>・受変電設備の健全な稼働状況を確保するため、専門業者による点検を基準化した。(2年に1回実施)</li> </ul>
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備、○主要設備のエネルギー管理</li> <li>・第2年度から実施している環境エネルギー会議での各設備の生産量及び電力等エネルギーの使用量の報告・情報の共有化の継続。</li> <li>○主要設備等の保安全管理</li> <li>・保全担当者を1名増員し、主要設備の不具合等の解消に努めた。</li> </ul>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	○高炉水砕スラグによるセメント製造業でのCO2排出抑制 川崎市のセメント製造会社に高炉セメント原料として販売
第1年度	○セメント製造会社に高炉セメント原料となる水砕スラグを約55万トン販売した。 (高炉セメントは水砕スラグとポルトランドセメントの混合で製造されるが、水砕スラグを普通セメントに置き換えることにより、その石灰石の焼成工程が不要となり、セメント製造会社のエネルギー消費量削減に貢献)
第2年度	○セメント製造会社に高炉セメント原料となる水砕スラグを約49万トン販売した。 (高炉セメントは水砕スラグと普通セメントの混合で製造されるが、水砕スラグを普通セメントと置き換えることにより、その分の石灰石の焼成工程が不要となり、セメント製造会社のエネルギー消費量削減に貢献)
第3年度	○セメント製造会社に高炉セメント原料となる水砕スラグを約44万トン販売した。 (高炉セメントは水砕スラグと普通セメントの混合で製造されるが、水砕スラグを普通セメントと置き換えることにより、その分の石灰石の焼成工程が不要となり、セメント製造会社のエネルギー消費量削減に貢献)

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	○従業員への環境教育を実施するとともに、エネルギー管理士、公害防止管理者の資格取得を促進する。 ○関係協力会社の省エネルギー活動を支援する。 ○製品運搬業者にエコドライブの実施を要請する。 ○廃棄物の減量化、分別回収を図る。
第1年度	○管理監督者及び協力会社の管理者に月1回程度の環境教育を計画・実施した。また、公害防止管理者資格を2名取得した。(大気1種、水質1種 各1名)
第2年度	○エネルギー管理士試験に2名合格した。 ○運搬に関わる協力会社に燃料使用削減を要請した。
第3年度	○廃棄物の適正な処理を確認するために、廃棄物処理業者の現地視察を4社実施した。 ○事務所のエアコンを大型機1台で全室対応していたが、各室毎に小型エアコンを設置し室別に室温管理することによって、使用していない会議室等への冷暖房使用を回避するようにした。

## 6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

## (1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,817	t-CO <sub>2</sub>
(調)	3,791	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

## (2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
京浜製造所	川崎市川崎区扇島1-1	2199	鉄鋼スラグ製品の製造・販売	3,817 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

## (3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--